

夢を見る



Sasaki Akino

(Drawn by Akino SASAKI)

最近、眠い。

もう 40 代になったというのに、よく眠る。だいたい、8 時間ぐらい。それでも眠い。

子どもじゃないんだから、と自分でも呆れてしまうが、それでも 8 時間以上寝ている。そして、それでも眠い。

休みの日、朝早く起きなくてもいい日は幸せだ。いつもより遅い時間まで寝て、

気持ちよく起きる。反対に、平日はまだ起きたくない時間にだいたい目覚まし時計が鳴る。そして、起こされるのだ。

そんな私は時々、夢を見る。細部まで覚えている場合もあるが、たいていは起きたときには忘れてしまっている。

でも、小さいころ、よく見ていた夢がある。それはこんな内容の夢だ。



私はまだ幼稚園に通う 5 歳の子どもだ。私が住んでいた家の裏には大きな山があった。夢の中で、私は一人でその山の奥へと入っていく。

幼いころはよく遊んだ山だが、夢の中では、今まで見たこともないような奥まで進む。太陽の日差しは高い木々に邪魔されて、あたりは暗い。そして、私は、山の奥にある洞窟にたどり着いた。

私はその洞窟へと近づいていく。中は岩場だ。その岩場をゆっくり下の方へと降りていく。そこはちょっとした広場になっている。

そこには何匹か蛇がいた。そして、私の目に入ってきたのは、全身が白い蛇だ。あまりにも色が白いので、暗い広場の中で、そこだけが光輝いているかのように見えた。

ちなみに、実際の私は蛇が好きじゃない。もし道の真ん中に蛇がいたら、走って逃げるだろう。それぐらい、蛇が怖い。

でも、夢の中の私は、蛇をずっと静かに見ている。蛇はおとなしく、じっとしていた。

私は広場を散策する。そして、岩場の陰に、本や雑誌が置いてあるのを見つけた。その中から一冊の本を手にする。

本を持って、私はあの白い蛇のところへと歩いていく。蛇はおとなしく、じっとしていた。私は、本を真ん中あたりのページで開き、それで蛇をはさんでしまう。そう、まるでサンドイッチのように。そして、本をしっかりと閉じる。私は本の中で、蛇の体をはさまっているのを感じている。それでも、本をしっかりと閉じ続けた。

そして、しばらくしてから本を開いた。本の中で、その白い蛇は、本のページのように薄くなって死んでいた。



そして、私は目が覚める。

この夢は珍しく、今でも覚えているものだ。小さいころ、よく見ていた、あるいは何回か見て、とても面白い夢だったので、今も印象に残っているだけかもしれない。今でも、この夢のことを思い出すとき、手に取った本の重さ、それで蛇をはさんだときの感触が記憶に残っている。そんな、生々しい印象を持つ夢もある。

人間の夢はその人の頭の中の考えや希望などを表しているという専門家もいる。また、見た夢で今の状況や将来を占う「夢占い」というものも存在するそうだ。

私の見た夢は何を意味していたのだろうか。お金持ちになるという予言だったら、いいなと考える。でも、実現していないところを見ると、そうではないのだろう。

(1197 字)

(2021.4 Written by Yuki MORI)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典 : 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.